

第3回 高知県史編さん編集委員会議事概要

日時：令和4年6月19日（日）
10時00分～12時00分
場所：高知県立坂本龍馬記念館

出席委員：藤井委員長、羽賀副委員長、井上委員、岩佐委員、大門委員、岡本委員、
小幡委員、佐藤委員、鋤柄委員、常光委員、津野委員、原委員、三浦委員、
三宅委員、邑田委員、渡部委員

事務局：中内課長、山崎企画監兼室長、窪内課長補佐、南チーフ、大城主事、小林主事、
弘田主事、坂本専門員、大野会計年度任用職員、長尾会計年度任用職員

1 開会

2 挨拶

藤井委員長より開会挨拶

3 協議・報告事項

(1) 第1回専門部会（近世・近代・民俗）の概要（調査方針及び今年度の計画等）について

設置済みの部会長（近世・近代・民俗）より第1回専門部会の概要説明。

【各委員主な意見】

- 別の委員から写真撮影の一定のフォーマットを提案いただいたが、どのような体制をとるのか。
→ 資料の所在調査も詰めていかなければならない状況にあるが、具体的にフォーマットについて議論は進んでおらず、これからということになる。資料も膨大になるため、そこまでのフォーマットは全体を統一して難しいのではないかという意見も出ている。
- 情報収集を始められていると思うが、集めた情報をどういう風に管理していくのか、そういうシステムが現状どうなっているのか。
- 歴史文化財課にあるデータベースについてで、各部会情報掌握に努めていると思うが、共有することで何か役に立つのではないか。必要な部会があれば提供できる仕組みづく

りが必要ではないか。

→ 資料の共有についてだが、本年度はそういった予算が別途獲得できていない、ただ委員同士のデータ共有ということであれば Microsoft の teams など意見が出ているが、部会共有としてどう進めていくか議論が進んでいない状態。それぞれの部会ごとにどう共有していくのかは各部会から意見を出してもらっているが、県史全体としての方向性はまだお示しできない状況。

○ 戦争遺跡は手に負えないほどの多くの情報があるため、考古部会だけでなく他部会とも共有していきたい。佐川町の青山文庫は非常に魅力的な近代史料の宝庫であり、来年度朝ドラの舞台にもなる場でもあるので、そのあたりも考えていただくと県民の方々の理解も深まるのではないかと。また、民俗部会の場合、祭礼は本編・資料編のどちらに入るのか、どう関係してくるのか教えていただきたい。

→ 民俗部会において、「祭礼」という用語を使うか「祭り」という用語を使うか、そこは今後検討しなくてはいけない。いずれにしても本編の中に位置づける予定である。

○ 市町村の情報収集をまずしないとなかなか一歩が踏み出せない状況にある。各市町村の教育委員会や史談会、文化施設、地元の研究会等の外部の力を借りながら、1度全体の基礎的な雰囲気把握をすべき。事務局だけで把握しようとする時間だけが過ぎかねないので、部会や関係機関等含めて協力しながら動き始める必要がある。

○ 細目録、件名目録をどうやってとっていくか。時間と人が必要であるため、人的・財政的な手助けがないとなかなか軌道にならないのではないかと。

(2) 高知県史の第1期計画について

資料2、3について、事務局より説明

【各委員主な意見】

○ 6月末に作成予定の第1期計画は誰が作成して誰に提出するものなのか明確にしてほしい。

→ 第1期計画は高知県の計画であり、各専門部会の意見を踏まえた上で、事務局側で調整をさせていただく。意見はいただきたいが、編集委員会が提出する計画ではなく、県の計画として責任をもって、進めていくものとなる。

○ 来年から考古、文化財、自然部会が設置されるが、第1期計画の期間内にその内容が入っていないため、組み込んでいただきたい。

- 必ずしも部会委員の意見を十分に聞いた上での立案にはなっていないところが懸念。
各部会員が承諾しなければ、なかなか進まない。
→ 次回以降は、委員の方にいただいた意見等をリストアップし、対応表にして整理する。
- また、年度毎に訂正もしくは追加が可能であるという話があった。年度末に編集委員会が開かれると思うが、その際に次年度の計画に追加部分や訂正部分を部会から提案できるのかどうか。第1期計画の中の年度計画、各年度の進行についてどのような訂正、手続きが必要なのか示してほしい。
→ 当然全て盛り込める訳ではなく、最低でも2月・3月の編集委員会などには次年度どうするのかといったことを盛り込んでいきたい。この計画は県が責務を負うと同時に、専門部会の意思表示でもあるため、盛り込みすぎるのもどうか。改訂については年1回ではなく、年数回でも構わないと考える。必要に応じ改訂を行い、中身をブラッシュアップしていきたい。
- 全体をある程度把握した上で何をするのかというところまで、部会が立ち上がるまでに作成できればいいが、現状そこまでできるのか危惧される。ある程度見切りで計画を作成して、必要に応じ細かく訂正・修正を行い、結果的に大きなズレが生じないように調整していくべきではないか。
- 形として現れてくる発行物や講座等に焦点が当てられており、各部会の手前の調査、市町村とどのように連携を図るのかといった現在の課題があまりこの第1期計画に拾われていない。進捗管理という話になると、現在の課題からずれて、形になって目に見えるところにのみ焦点が当てられるところが気になる。修正・訂正が可能というよりも、このようなズレが毎回出て、編集委員会が後追いのように議論をしていかなければならなくなるのは問題ではないか。
- この第1期計画はどう評価されるのか。例えば、年度計画が最後段階で進捗していなかった場合、第2期計画の際に予算影響がでるのかどうか。
- 一方的な枠組みで進められてしまう可能性が高いので、現段階でどういう課題があるのかといこうとを進める側の意見として計画に書き込ませてもらいたい。計画の中にどういう課題があるのか（室の状況等）、それに対し県はどう答えるのかといったことを書き込む工夫をしてほしい。
- 専門部会の議論と計画との間に大きなズレがあるように感じるため、県が作成する計画に課題を列挙するというのは馴染まないかと思うが、列挙するよう強く要望する。現段

階にある課題を計画に組み込むべき。

→ 課題が整理できておらず、事務局が何ができるのかという提示ができないため、こういった議論になっている。率直に反省しているところである。

この計画を前進させるためには課題を明確・集約し、各専門部会での取り組みが着実にできる体制をつくる必要があると総務部にしっかりと伝えていきたいと思う。

- 資料の調査方法は別として、誰が資料をまとめるのか、分担して作業するのかが意識されていないように感じる。この先、どのように部会を育てれば事業が達成できるのか、誰が責任をもって仕上げていくのかイメージできない。特に人員確保が問題であり、今依頼すれば事業に協力してくれる人がいるかもしれない。そういった人材確保のことも考えると、計画の進め方は固めすぎず、少し流動的にしておく方がいいのではないかと思う。
- 他の部会の意見を拝聴していると、とても1年で準備はできないというのが率直なところだと感じる。今後発足する部会については、今から準備できることもあるかと思うし、基礎的な議論をしておかないと、おそらく対応できない。先の話であるが、他部会との連携や発足の時期、予算等、事務局には柔軟に対応していただきたい。
- 資料を提供してくれる方が現れた時に資料を保存する場所がないと、資料が散逸してしまう可能性がある。収蔵庫を作るなど、事務局には検討してほしい。
- 今後の課題、会議であがった課題を計画に書き込んでいただくということで、委員会として了解をいただきたいが、よろしいか。

各委員質疑なし

- (3) 令和5年度の専門部会の設置について
資料4について、事務局より説明

各委員質疑なし

- (4) その他
参考資料1について、事務局より説明

4 閉会

(以上)